

平成 14 年度 第 3 回技術委員会議事録

1 . 開催日時：平成 14 年 12 月 12 日（木） 14:00-16:00

2 . 場所：古河電工 本社 4 階 第 3 会議室

3 . 出席者：田中靖三（委員長、ISTEC）、前田邦裕（日立製作所）、石渡裕（東芝）、竹村和夫（日本板硝子）、熊倉浩明（物質・材料研究機構）、樽谷良信（SRL）、秋田調（電力中央研究所）

4 . 提出資料

- (1) A 部門研究調査運営委員会メモ
- (2) 金属・セラミックス技術委員会名簿
- (3) 平成 15 年電気学会全国大会シンポジウム「ナノテクノロジーと超電導材料の展望」
- (5) 調査専門委員会趣意書（半導体/光）
- (6) 調査専門委員会趣意書（超電導）
- (7) 金属・セラミックスホームページ「日本語」「英語」原案
- (8) 電気学会 H14 優秀論文発表賞推薦案
- (9) 平成 14 年度活動フォロー
- (10) 平成 14 年度研究会開催フォロー
- (11) 平成 15 年度活動計画
- (12) 平成 15 年度研究会開催計画
- (13) 「超電導材料の線材化・導体化技術」調査専門委員会議事録第 1 回から第 7 回

5 . 議事

(1) 技術委員会構成変更について

金属・セラミックス技術委員会構成変更は上部運営委員の承認を得た旨の報告があった。承認が長引いた理由は、学会員比率が規約では 100%であるべきところ 62%であったことによる。当委員会に限らず A 部門は、電気学会以外の学会との境界領域での活動が多く、学会員比率を 100%にすることは難しい実情ではあるが、入会の勧誘を継続することを条件に承認を受けた。

(2) 平成 15 年電気学会全国大会シンポジウムについて

運営委員会メモにより講演時間、執筆締め切りなどの確認がなされた。

(3) 調査専門委員会について

新規構想中の 2 件の調査専門委員会は、委員長並びに委員の人選に手間取り、運営委員会に再提案できないままになっている。2003 年 4 月発足を目標に、3 月の運営委員会再提案を目的とすることとなった。なお、当委員会がセラミックスの一環として光材料を扱うこと自体は問題ではなく、将来の 5 学会連合の構想にも沿うもので、期待したいとの意見も出された。

(4) ホームページについて

原案に委員の意見を反映し、2003年1月を目標にまずアップし、データベースの枠組みを作ることとなった。

なお、委員会(技術委員会、調査専門委員会)名簿は、名前と所属の開示に留める。

(5) 「環境技術の将来展望」事業について

運営委員会メモにより、主旨と当面の平成15年の活動計画、宿題確認などがなされた。

なお、B部門の超電導応用電力機器技術委員会(海保委員長/高尾幹事)に連絡をとり活動領域を確認する必要性が指摘された。

(6) 電気学会 H14 優秀論文発表賞推薦案について

吉川委員からの推薦提案が、原案とおり承認され、1月10日までに届けることとなった。

(7) 「超電導材料の線材化・導体化技術」調査専門委員会議事録

秋田調査専門委員会委員長より第1回(平成13年10月)から第7回(平成14年11月)までの議事録が紹介された。テーマは材料であるが、高温超電導線のひずみ感性など応用側からのニーズを受け止め、応用分野との明確な接点をとるスタンスで調査が行われていた。

また、委員長から中間報告的な研究会を開催したいとの希望が出され、開催企画をお願いすることとなった。

(8) その他の意見交換

金・セラ技術員会の活動として、調査専門委員会では「実装技術」を、研究会では「ナノテクノロジーやナノ材料」など時流の自由なテーマを扱うことに期待する。

見学会を技術委員会開催時に組み込んでどうか。

技術委員会開催場所として、SRL、NIMS、AISTも活用可能である。

A部門にはA部門活性化のための部門活動資金(平成14年度200万円/年)が予算化されており、金・セラ活動資金(約1万円/年)が不足する場合運営委員会に申請し、研究会開催資金として活用してはどうか。

研究会テーマ(各自の分野に近いテーマなど)及び又は見学会場所についての各委員から提案を、次回技術委員会までに金・セラ技術委員長がまとめることとなった。

(9) 次回第4回技術委員会予定

運営委員会開催(3月上旬)後の日程とする。

以上